

令和7年11月17日

小野市議会議長 平田 真実 様

民生地域常任委員会
委員長 喜始 真吾

行政視察報告書

先般、実施しました民生地域常任委員会行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 令和7年11月5日（水）～令和7年11月7日（金）

2 視察メンバー

安達哲郎 掘井ひさ代 宮脇健一 村本洋子
河島三奈 山本悟朗 藤原 章 喜始真吾

3 視察先及び調査内容

(1) シェア金沢（金沢市若松町セ104番地1）

シェア金沢について

。

(2) 有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町15）

スマート農業について

最先端のスマート農業を導入したブロッコリー栽培の大規模経営において、労働時間の削減、収穫量の増加、収益の向上を目指している。

(3) 福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸3-1）

東京ドーム1.2個分という広大な敷地内に、屋内施設として、展示エリアや

プラネタリウム、プレイエリアなどがあり、屋外には遊具広場・ビオトープなど、子どもたちの喜ぶアイテムがぎっしり詰まっている。宇宙や科学に対する目を養い、遊びながら楽しく学べる巨大施設。

(4) 福井県庁（福井県福井市大手3丁目17-1）

ふく育県の子育て支援について

「みんなが安心して過ごせるように」「みんなの夢が輝く、幸せな未来」「子育てって楽しい！を分かち合おう」この三つの柱で取り組んでいる総合的な子育て支援政策である。

4 調査結果

【第1日】

《視察先》シェア金沢（金沢市若松町セ104番地1）

《視察項目》

シェア金沢について

《視察内容》

シェア金沢とは、高齢者、大学生、病気の人、障害のある人、分け隔てなく誰もが、共に手を携え、家族や仲間、社会に貢献できる街。かつてあった良き地域コミュニティを再生させる街である。

施設の入り口には、それとわかる看板はなく、小さな案内板が立っているのみで、周囲に塀や壁を設置することもなく、ご近所との境界線をつくらない設計である。

「施設と街を線引きせずに地域のグラデーションをつくるのが、シェア金沢の目指すべき役割」と考えている。（施設長）

この考え方のとおり、男性・女性、若者・高齢者、学生・社会人、健常者・障がい者といった属性を取り除き、「人を分け隔てしない街づくり」を目指して活動を続けている。これがコンセプトである「ごちゃまぜ」となっている。

敷地面積は約35,000㎡、この中には定員30名の障がい児入所施設や就労支援を行うワークセンター、サービス付き高齢者住宅、アトリエ付きの学生向けワンルーム賃貸のほか、就労の受け皿となっているレストラン、キッチンスタジオ、音楽イベントを開催できるライブハウス、そして地域の人たちも利用できる天然温泉やショップ、ドッグランなどもある。

開業から11年、「シェア金沢」の存在は地域の人たちに様々な効果をもたらしている。視察に来た方々は、「ここにいる人たちは、地元の子か、障がいを持っている子か、地域の人か、デイサービスの人か、まったく区別がつかない。」という印象を持つ。実際、サービス付き高齢者向け住宅で暮らしている高齢者が、障がい児の面倒を見るようになり、自分の役割ができたことで、責任感が生まれ、徘徊がなくなったケースや、地元で問題児と呼ばれて親からも見放されてしまった子どもが、レストランの厨房で働くようになり、障がいを持つ子どもたちから慕われるようになって、将来は福祉の仕事に就きたいと新たな目標を見つけたケースもある。

こうしていろいろな人たちと分け隔てなく関わるようになると、どんどん視野が広がり、社会というのは、家族や友達の範囲だけではないということに気づいて、みんながどんどん元気になっていく。

このような取組を受けてシェア金沢は、『グッドデザイン賞（地域・コミュニティづくり）』や『総務省ふるさとづくり大賞』など数多くの賞に輝き、国内外からの視察も多く受け入れている。

《所 感》

これまで視察に来られた方と同様に、地元の子か、障がいを持っている子か、地域の人か、デイサービスの人か、まったく区別がつかないほど自然なまちを形成している。

午後から訪問させていただいたが、放課後の時間帯には子どもたちが屋外で楽しく過ごしている姿を見て、私の町ではあまり見ることができない光景に映った。

食事もとらせていただいたが、厨房も生き生きとしていて明るい。

担当者の方が、支える側の活動も生きがいになっていると言われており、「小野市でも保育所にカフェ、資料館に居酒屋など人が集まる仕掛けから始めたらどうか」といった民間ならではの提案があり、今後人口減少が進む中、施設の統廃合を検討していくうえで参考としたい。

概要説明



天然温泉



【第2日】

《視察先》 有限会社安井ファーム（石川県白山市七郎町15）

《視察項目》

スマート農業について

《視察内容》

・安井ファームは石川県内一の生産量を誇るブロッコリーをはじめ、水稻や大豆、キャベツ、白菜などの多彩な農作物を栽培する北陸最大規模の複合経営ファームである。

・作付け面積は162ha、このうちブロッコリーは94ha、水稻48ha、大豆15ha、その他（17品目）5ha。

代表の安井善成氏自らのプレゼンテーションで、講義を受けた。

「農業」は字のごとく、農を生業とする仕事ですが、その道は決して簡単ではありません。技術を身につけるのは一朝一夕にはいかず、作物、気候風土、規模によって、栽培方法はまったく異なります。生半可な気持ちでは飛び込めない業界です。一方で、「食」は生きていくうえで欠かせないものであり、その根幹を担う農業はとてもやりがいのある仕事だと感じています。だからこそ、安井ファームは誰にも負けない熱量で農業と向き合う若者を後押しします。

ブロッコリーには1房に7万個もの蕾が付いています。蕾が開いてしまっただけでは商品にはなりません。当ファームで働く社員には夢に向かってどれだけでも花を咲かせてほしいと思っている。と安井代表は述べた。

【年間3作体制】

・県産ブロッコリーの約30%を生産⇒3個に1個は当ファーム産。また、種まき時期や品種を変えながら春・秋・越冬の年3回の収穫を行い、1年のうち9か月はブロッコリーを出荷できる体制を整えている。

【越冬作】

秋に播種・育苗・定植を行い、北陸の厳しい寒さの中ではぐくみ、3、4月に収穫する越冬作の栽培技術を独自に確立。

【持続可能な栽培】

大手スーパーと連携し、店頭で出る野菜くずを堆肥化して栽培に利用するなど、環境にやさしい持続可能な栽培に注力。

【省力化】

手で摘み取っていた収穫の機械化や、ドローンによる収穫期の画像診断など、効率的な農業に向けた研究を推進。これにより労働時間が約17%削減、収量は約25%増加し、目標の35%の収益性向上が達成されている。

【法人化】

法人化は約20年前、2008年には県内初のグローバルGAPを認証取得。

スタッフはパートや技能実習生を含めると30人以上、全員が非農家である。

《所 感》

代表の話しぶりには大変熱意を感じた。

平成29年に約3億4千万円の投資をしたが、補助金は冷蔵庫のみとのことで、それから5年間は赤字で、それ以降は黒字になったとのこと。

現在は、原発被害のあった福島県双葉町の農地についても約30haを借りて耕作しており、水稲も3年前の倍以上作付けしているそうで、着実に成長しているところは素晴らしい。

しかし、課題はやはり後継者不足で、技能実習生がいないと成り立たないということなので、今後は人材の確保・育成に力を注いでいくことについての思いは、小野市と同じと感じた。

また、大区画でないとロボットトラクタ等の機械の効率が悪いので、小野市の農地でどこまで導入できるかも課題である。

概要説明（安井代表）



《現地視察先》

福井県児童科学館（福井県坂井市春江町東太郎丸3-1）

愛称は「エンゼルランドふくい」

1. 施設の概要

- (1) 所在地：福井県坂井市春江町東太郎丸3-1
- (2) 設置主体：福井県
- (3) 指定管理者：ふくい福祉事業団・丹青社
福井県児童科学館運営事業体
- (4) 設置目的：遊びを通じて児童の健康を増進し、その情操を豊かにするとともに科学に対する関心と理解を深めることにより、児童の健全育成を図ることを目的として設置した。（児童福祉法に基づく児童厚生施設【大型児童館】）
⇒全国に18か所

2. 利用時間

- (1) 開館時間：午前9時30分～午後5時まで7/1～8/31は午後6時まで開館
- (2) 休館日：月曜日（休日を除く）
休日の翌日（土・日・休日を除く）
年末年始（12/28～1/4）※7/21～8/31は休まず開館

3. 建物の概要

(1) 規模

- ① 敷地面積：54,906㎡
- ② 建物構造：本館 鉄筋コンクリート地上2階（一部3階）
別館 鉄筋コンクリート地上2階
- ③ 建築面積：5,752㎡
- ④ 駐車場：普通車360台・大型バス10台（無料）

(2) 総工事費：約110億円（土地取得を除くと約88億円）

4. 経緯

平成4年度 基本構想計画

平成5年度 基本計画策定

平成6年度 基本設計、地質調査、用地取得

平成7年度 実施設計

平成8～10年度 建築、展示工事（工期：平成8年10月～平成11年3月）

平成11年6月1日開館

平成28年10月22日 展示エリアリニューアル

令和6年6月1日 開館25周年

令和6年7月13日 入館者1100万人達成

令和7年5月24日 開館25周年記念式典

令和6年度に実施予定だったが、屋根改修工事のため、完成後に実施した。

5. 名誉館長

宇宙飛行士 毛利 衛 氏（平成11年6月就任、現在9期目）

毛利衛氏は、父親の正信さん（故人）が福井県坂井市春江町の出身であり、本件とゆかりが深く、また、当館内には宇宙・科学の展示ゾーンを設置していることから就任された。これまで来館・講演会を延べ10回開催されている。

6. 主な利用層とプログラム

平日：子育て講座、あそびの広場等

スペースシアター（学習投映）

クラフトルーム（工作教室）

コミュニケーション・ラボ（コミュラボ・ラーニング）

サイエンスショー

コンピュータールーム（コンピュータ教室）

土・日・祝、夏休み

自主企画イベント、各種連携イベント、企画展

スペースシアター・クラフトルーム・お店屋さん

コミュニケーション・ラボ・サイエンスショー等

ゴールデンウィーク、お盆

企画展、特別イベント

スペースシアター・クラフトルーム

サイエンスショー

《所 感》

様々な遊具の中に科学を取り入れ、あそびの中にも科学に関心を持ってもらえるような工夫がなされている。

来訪は平日だったが、放課後には多くの子どもたちが来館して利用しており、「遊びと学びと交流で子どもたちに新たな驚きと発見と成長を」というキャッチフレーズがピッタリとハマっている。

また、宇宙飛行士の毛利衛氏が実際に宇宙で使用した日用品などは、普段私たちが見ることのできない貴重なものばかりなので、来館者にはプラスアルファのスパイスになっていると感じた。

小野市のチャイコムも、もっと子どもや子育て世代が楽しめて、次世代を担う若者が育っていく礎となるような環境を創出する施設になればと切に思う。

概要説明



宇宙飛行士の毛利衛さんの宇宙での生活用具を前に



【第3日】

《視察先》福井県こども未来課、ふく育推進グループ

《視察項目》

ふく育県の子育て支援について

《視察内容》

＜ふく育県の概要＞

令和4年2月 日本一幸福な子育て県「ふく育県」の推進を宣言

1. 日本一の不妊治療支援

(自己負担額の上限6万円)

- ・妊娠出産時の経済支援

2. 日本一の男性育休支援

3. 日本一のふく育応援

第2子以降の保育料、高校授業料を所得制限なしで無償化、県内大学等の授業料支援等

- ・中学生までの医療費無償化
- ・子育て世代の家事・育児、外出を支える「ふく育さん」「ふく育タクシー」
- ・県内店舗で割引等を受けられる「ふく育」パスポート
- ・雪や雨でも楽しめる「全天候型の遊び場」の整備

この3つの項目を掲げて「ゆりかごから巣立ちまで」切れ目のない支援を実施している。

＜ふく育県ブランドの発信＞

① テレビCM、SNS 広告等

- ・切れ目のない支援をわかりやすく伝えるテレビ
- ・CMのほか、SNS 広告や駅でのデジタルサイネージ広告等で発信

② 子供・子育て応援イベント

- ・保護者同士の交流や、子育ての喜び、親子の絆を感じてもらい、こども・子育て応援イベント「ふく育祭」を開催

③ 新聞広告、ハンドブック

- ・本県の子育て環境の魅力を分かりやすくまとめた新聞やハンドブックを制作し、様々な機会をとらえて周知

【成果】

- ・テレビCMなど、県内外での継続的なPRを通じ、本県での前向きな子育て感の醸成や移住者増加に寄与

ふく育県の認知度向上 県外 6.3%⇒10% (R6 キャンペーン後)

県内 46.0%⇒70% (")

「子育て環境が良さそうな都道府県」(福井県)の回答率 66%⇒82% (")

UI ターン者の増加 614世帯、1,018人⇒765世帯、1,367人 ※ (R6)

※うち20～30代の子育て世帯が約半数超 (775人)

<これまでの取組の成果>

① 女性の平均初婚年齢 29.0歳 (R2 全国10位) ⇒ 28.9歳 (R6 全国1位)

② 女性の年齢区分別出生数	30～34歳	40～49歳
	R5 1,584人	R5 242人
	<u>R6 1,608人</u>	<u>R6 249人</u>
	+24人	+7人

③ 民間企業男性育休取得率 31.4% (R5) ⇒ 44.9% (R6) 過去最高
経済的負担感 H20 H25 H30 R6
78.2% 74.5% 71.5% 63.5%

※政府目標⇒取得率85% ☆県庁は100%

④ 合計特殊出生率 1.46 (R6 全国2位) 全国で唯一前年の出生率を維持

※第1子と第2子の合計特殊出生率は全国1位

<不妊治療費助成事業>

・医療保険適用となる治療、先進医療及びそれと併せて実施される治療について、基本的に自己負担額が6万円を超えないよう助成

実績：件数⇒特定不妊治療 R4 851 R5 1,296 R6 1,578

一般不妊治療 R4 115 R5 144 R6 154

※保険適用範囲が拡大した令和4年度以降増加傾向

<ふく育応援プロジェクト（子を2人以上育てる世帯への経済的支援）>

- ・保育料の無償化⇒世帯年収640万円未満の第2子に加え、令和6年9月からは世帯年収640万円以上の第2子の保育料無償化の範囲を拡大
- ・ふくい在宅育児応援手当⇒第2子以降を在宅で育児する年収360万円未満の世帯に加え、年収360万円以上の世帯に対しても支給 (R6.9～)
- ・一時預かり事業（保育所内）⇒主に未就園の児童を対象に就学前の第2子以降は無償
- ・すみずみ子育てサポート事業（民間等による一時預かり、ベビーシッター、家事支援等）⇒未就学または小学校3年生以下で、放課後児童クラブが利用できない児童を対象に就学前の第2子以降は無償
- ・病児保育事業⇒小学生以下の児童を対象に就学前の第2子以降は無償

<こども医療費助成事業>

- ・抵抗力が弱く、病気にかかりやすい子どもの医療費を助成
事業主体：市町（県が費用の1/2を補助）
対象年齢：中学3年生まで、所得制限なし

<ふく育さんとふく育タクシー>

- ・ふく育さん（ベビーシッター）の派遣
夜間・休日等を含め、ニーズの多い時間帯に子どもの預かり等を担う家事育児サポーター「ふく育さん」を派遣⇒県内17市町利用可能、業者委託
- ・ふく育タクシーの運行
子どものみの送迎や妊婦の通院等をサポートするため、県の研修を受講した認定ドライバーによる「ふく育タクシー」を運行⇒24事業所100人のドライバーが登録

★令和7年度の新規施策

- (1) 「ふく育さん」の利用者負担を軽減（すみずみ子育てサポート事業のうち数）
- (2) 育児負担が大きな世帯に「ふく育サービス」の共通クーポンを配布（ふく育サービス利用支援事業）

☆「ふく育県」の子育て施策の評価（R5 県民アンケート）

- ・回答者の7割以上が、子育て施策を評価（若い世代ほど評価が高い）

☆今後強化すべき子育て支援策は何か（R5 県民アンケート）

- ・すべての年代で、仕事と子育てが両立しやすい労働環境整備を求める声が多い
- ・次いで経済的負担の軽減、家事育児のサポートと続いている

★「ふく育推進チーム」における新たな子育て支援策の検討

- ・「ふく育県」の子育て支援を更なる高みに引き上げるため、令和7年7月に副知事をトップとする部局連携のチームを設置
- ・4月19日に第1回チーム会議を開催（検討開始）
- ・チーム設置後、子ども・子育て支援に取り組む9団体との意見交換を行いながら、庁内会議等で施策案を検討

〈所 感〉

2024年には全国で2番目の合計特殊出生率（1.46）となっており、47都道府県幸福度ランキングでは6回の日本一になった実績のとおり、全県を挙げて取り組んでおられる「ふく育県」の施策が着実に成果を出している。

統計を見ると、生涯未婚率で女性が全国1位（12.1%）、男性が2位（23.4%）で、共働き率が1位（61.2%）、これは3世代世帯割合が2位（11.5%）という位置と比例しているのではと推察する。

現在社会における最大の課題である人口減少問題に対して、こうした県の主導で様々な施策を実践され、大きな成果を出されていることについては素晴らしいの一語に尽きる。地域の特性等もあると思うが、小野市においても参考にしたい。

議会事務局会議室にて概要説明



福井県議会議場

